

「2014年版 10大脅威」 現在の脅威・インシデント

1. ネットワーク対応機器の増加

- インターネットに接続できる機器が増加
- 事例
 - 2013年8月：ベビーモニターのハッキング
 - 2013年11月：複合機の情報が閲覧可能な状態で設置
- ユーザー側の認識不足が要因
 - 仕様を十分に理解できていない
 - 機器がインターネットに接続していることに気づいていない
 - 企業では、システム管理部門ではなく総務部門がネットワーク対応機器の管理
- 安全に利用するために
 - 説明書をよく読み、適切な設定を行う
 - 必要が無い限り機器をインターネットに接続しない
 - ファイアウォールやプロキシサーバーなどでインターネットから機器への通信を制限する

セキュリティのあまい機器が狙われ、情報漏えいや乗っ取りなどの被害多発
複合機、ウェブカメラ、ハードディスク、テレビ、ビデオ、ゲーム機
ウェブインタフェースにより設定・管理できるオフィス・家電機器が増加
機器をインターネットに接続することで、不正アクセスの危険性増加

2. エンドポイント・セキュリティの重要性

- ネットとの境界だけでなく、機器自身で防衛する必要性拡大
 - 境界防御の限界
 - 標的型メール攻撃が顕在化
 - PCやスマホ等エンドポイントの対策が重要
- 最新のOSやソフトウェアの使用がエンドポイント・セキュリティ強化への近道
 - 狙われるソフトウェア
Oracle Java(JRE)、Adobe Acrobat・Reader・Flash Player、Microsoft Office
 - PCを利用する上で欠かせないソフトウェアの脆弱性が狙われる
 - 新しいソフトウェアほどセキュリティ機能が強固
- Windows XP
 - 2014年4月9日(日本時間)サポート終了
 - 保守サービスの終了、アプリケーションも順次サポート終了
 - でも、使うのであればインターネットに接続しない…他のOSをインストールする等

3. インターネット利用の低年齢化に伴う問題

- ログやSNSを利用したいじめが問題に
- 未成年者がインターネットで被害者・加害者に
 - ガラケー・スマホを使用する小中学生が増加
 - オンラインゲームや学習教材、コミュニケーションツールのコンテンツが充実し、年々利用開始年齢が低下
- ITユーザーの低年齢化
 - 被害者ではなく加害者になる事件も増加
 - 同級生のID/パスワードを使って不正アクセス：12歳児童補導
 - ウイルスを作成する小学生
 - ・2009年2月6日米国でオバマアイコンを表示するウイルス
 - 幼少期や中学生にも教育や対策を
 - 保護者が適切なインターネット利用について理解し、子供と会話を
 - ペアレンタルコントロール機能を活用することも有効
- インターネットのトラブルや犯罪
 - 利便性が高い反面、偽名でも利用可能、悪用や誹謗中傷が問題
 - 出会い系サイトでの被害者は、2013年上半年だけで74名
 - 無料電話アプリ「LINE」で個人情報教えてしまい、犯罪に巻き込まれる事例も増加
 - 「個人情報教えない」「安易に見知らぬ人と連絡を取り合わない」等、若年層からの教育が必要
 - 保護者への高額請求
 - 国民生活センターへの相談件数：2013年3,000件超
 - ・「高校2年生の息子が、約60万円分のアイテム購入」
 - ・「孫がクレジットカードを勝手に使い、オンラインゲーム会社から20万円弱の高額請求」

※ ITの普及により、脅威は身近なものに脅威を理解することが、情報セキュリティの強化に繋がる